



2019.8.28
NO.632号
全港湾関西地方
阪神支部
大阪市港区築港
1-12-27
06-6574-8424
078-303-0800
全港湾は一人
でも入れます

春闘・一時金総括会議

組織拡大・運動強化が不可欠



19春闘 阪神支部のたたかいの経過報告

7月24日に拡大分会代表者(春闘・一時金総括)会議が大阪湾労働者福祉センターにて行われました。はじめに久保田書記次長より7月21日に行われた第25回参議院議員通常選挙についてふれられ、「有権者全員が冷静に考え、平和を貫いてきた歴史を次の世代

につなげることが出来るよう我々労働組合としても雇用と暮らしを守る運動を改めて強化する必要があります」と強く訴え、開会の挨拶となりました。

畠山委員長より全国港湾の中央団交の現状について、特に産別最賃と事前協議制の問題点、上組のスト

破りや中央労働委員会のあつせん案についても話されました。

更に、IBMとマースクが共同開発した新システム「Tradelens(トレードレンズ)」について、「港湾書類についてもインターネットでしか処理出来ない時代になりつつあるので知っておいて欲しい」と話されました。

その後、河野書記長から19春闘のたたかいの経過と特徴点についての報告がありました。

分会春闘の経過報告

各分会からたたかいの経過が報告がされ、上組分会からは、考課査定運用の不備による賃金が標準者賃金より低い格差が発覚し、法的根拠等を用いて交渉した結果、9年間で発生した賃金差額の清算と賃金は正を勝ち取ったことが報告されました。

日本コンテナ輸送分会のたたかいでは現役社員の現行労働条件を引き継ぐ、「65歳定年延長制度」についての交渉を6年半行い、分会提案として61歳から63歳までの現行労働条件100%にするよう要求し、さらに残りの65歳までの2年間で継続課題としてたたかっています。

全日検神戸分会では30年間放置されていた住宅手当が残業代の計算基礎から除外され、未払い賃金が生じている問題について、住宅手当の全額本給化を勝ち取りました。

ジャパンエキスプレス分会のたたかいでは商船三井出向者である総務部長が「管理職労働組」を結成し、「商船三井がジャパンエキスプレスの清算を行い、他社が雇用を引き継ぐが、全港湾加入者は受け入れられない」などと吹聴し勧誘していたことが発覚しました。この行動に対して阪神支部として不当労働行為(支配介入)への抗議を文書で会社へ手渡し、抗議行動を行っています。更に、商船三井に対しても抗議文書と継続的な抗議の街宣行動に取り組んでいます。

日興サービス分会は昨年からの引き続き、団体交渉拒否による不当労働行為のたたかいと日興サービス組合員の日検への直接雇用のたたかいを継続して行っています。

質疑では後藤回漕店分会の濱田健一さんより「中央の春闘がまとまらない中、上組によるスト破りがあり、運動を強化していかなければ労働組合の弱体化や存在意義にもかかわる問題

「あ、ありがとう」。口にすただけで気分が弾むようだ。それに比べ、「ノルマ」のなんと重苦しい語感だろう。仕事の目標という意味でよく使われるが、戦後、シベリア抑留から帰国したみなさんが伝えた言葉らしい。かんぼ生命保険で、よく分からないまま高齢者が新たな契約を結ばされたりしていたのだ。そんな不正販売へ郵便局員を追い詰めたのが過剰なノルマというから、やりきれない。かんぼの顧客、約2650万人という。数の上では国民の5人に1人になる。それもこれも郵便局への信頼があつてのことだ。見慣れた「テ」のマークが泣いている。不正融資に揺れるスルガ銀行の行員がこんな例えをしていた。「みんな回遊魚のようだった」。ノルマに追われ、融資先を探し泳ぎ回っているという意味だ。回遊魚はあちこちで泳ぐ、立ち寄った図書館で夏休みの自由研究のヒントが貼られていた。中学生向けのテーマの一つに「死語」の研究があつた。いつか「ノルマ」を使わない時代がきたい。



同、ロシア語でも、「ハラシヨ」や「スパシ」は耳に心地よい。日本語では「いいなあ」「ありがとう」。口にすただけで気分が弾むようだ。それに比べ、「ノルマ」のなんと重苦しい語感だろう。仕事の目標という意味でよく使われるが、戦後、シベリア抑留から帰国したみなさんが伝えた言葉らしい。かんぼ生命保険で、よく分からないまま高齢者が新たな契約を結ばされたりしていたのだ。そんな不正販売へ郵便局員を追い詰めたのが過剰なノルマというから、やりきれない。かんぼの顧客、約2650万人という。数の上では国民の5人に1人になる。それもこれも郵便局への信頼があつてのことだ。見慣れた「テ」のマークが泣いている。不正融資に揺れるスルガ銀行の行員がこんな例えをしていた。「みんな回遊魚のようだった」。ノルマに追われ、融資先を探し泳ぎ回っているという意味だ。回遊魚はあちこちで泳ぐ、立ち寄った図書館で夏休みの自由研究のヒントが貼られていた。中学生向けのテーマの一つに「死語」の研究があつた。いつか「ノルマ」を使わない時代がきたい。

港湾秩序乱す行為を許さない!!



上組本社前で怒りのシュプレヒコール

代表あいさつに立つた全国港湾系谷委
員長は、19春闘での
産別最賃回答拒否に
ついて、日本港運協
会が独占禁止法に固
執し、また中央労働
委員会のあつせん案
を拒否し、港湾の混
乱を招いている協会
の姿勢を批判し、更
に、「上組は日本港運
協会、兵庫県港運協
会の会長職という業
界の指導的立場であ
りながら責任放棄
し、自ら強行荷役を
行ったスト破り行為
は、長い歴史上前代
未聞であり、断じて
許すわけにはいかな
い」と語気を強めて
断罪しました。

上組の暴挙に全国港湾と 神戸港湾が猛抗議!

スト破りを行った上組、指定事業体の違法派遣を責任放棄する日検、組合への支配介入する商船三井の3社に対し、様々な抗議行動が展開されました。

4月15日、上組がPC18において48時間ストライキ
決行中に強行に本船荷役作
業した、いわゆる「スト破
り」行為が発生しました。
地区港湾が嚴重監視強化を
していた最中に行われ、そ
の態度が瞬時に全国へと一
斉に拡散し、上組に対し、
全国各港から非難の声が沸
き上がっています。

この卑劣な行為を重く見
た全国港湾と神戸港湾を中
心に6月27日、朝の出勤時
刻にあわせ(株)上組本社前
(神戸市中央区)で怒りの
抗議行動を展開しました。
全国港湾から系谷委員長
玉田書記長、松本委員長代
行、全港湾から真島中央執
行委員長、松永書記長、神
戸港湾から吉岡議長、高嶋
事務局長をはじめとする幹
事団が熱帯いし、各単産合
わせ約80名の組合員が小雨
の降る中集結しました。

神戸港湾の磯田事務局次
長は、15日に強行荷役した
PC18に対し、神戸港湾と
して抗議行動と抗議文を手
渡した経過を説明し、「名
古屋港でも強行荷役の動き
があったが業側が事の重大
さを認識し、回避したが、
警戒していた神戸港に於い
て再三の注意をしたにもか
かわらず実行したのは極め
て悪質で港湾秩序を乱す行
為だ」と非難しました。

そのあと全国港湾と神戸
港湾による組合代表団が当
該コンテナターミナルPC
18へ出向き、一連のスト破
り行為について港運統括責
任者と現場責任者に直接の
抗議と上組の姿勢を問いた
しました。
現場責任者からの謝罪は
あったものの、企業として
の文書回答については「検
討中」として回答を避けま
した。組合側は重ねて即時
の文書回答を要求していま
す。

日検の社会的責任を 放棄した不誠実な態度は 絶対許さない!!

8月1日(一社)日本

貨物検査協会(以下日検)
に対し、阪神支部への団体
交渉拒否(中央労働委員
会)、阪神支部と名古屋支
部の組合員16名による直接
雇用を求める訴訟(名古屋
地方裁判所)、名古屋支部
西脇書記長の賃金カットへ
の不誠実団体交渉(愛知県
労働委員会)への抗議行動
を全港湾東京支部からの応
援もかけつけ、日検本部前
で総勢約30名で取り組みま
した。
本部行動は今回で6回目
となり、労使関係があるに
もかかわらず、私たちの顔
を見るや否や、怪訝な顔に
なるのは、相変わらずです。
今回の行動で用意した
ピラは1000枚でした
が、参加された仲間の協力が
によりすぐに配り終える事
が出来ました。申し入れ行
動の後は座り込み行動とな
りましたが、関東も梅雨明
けをしており、気温は35度

を超す猛暑となっておりま
したが、熱中症には十分配慮
して行動に取り組みまし
た。座り込みをしている中
で、日検本部に入る従業員
が「これが、噂の…」と初
めて見た」と会話をしてい
るのが聞こえてきました。
抗議行動における認識は日
検社内でも広まっているこ
とが分かります。

申し入れ行動時に日検本
部3階で木下労務部長に申
し入れ書を手渡そうとする
のですが、毎度のことなが
ら受け取りを拒否します。
受け取らない理由は「期待
を持たせてはいけない」と
のことですが、最初に協議
を持ちかけて来たのは日検
木下労務部長です。それを
一方的な解釈のもとに労使
関係を反故にし、交渉を拒
否してきたにも関わらず、
抗議行動の度に警察を呼ん
でいます。しかし、警察も
民事不介入ですので、何も
せず見ているだけとなって
おり、困惑の表情を浮かべ
ています。
日検のこのような無礼で横
暴な態度を改めさせるため
に、広く港湾関係に訴えか
け、法廷闘争も並行して全
力でたたかいをすすめてい
きます。

名古屋支部書記長
西脇 敬



東京支部の仲間もかけつけ日検本社前でシュプレヒコール

商船三井本社 街宣抗議行動

商船三井からの出向者であるジャパンエキスプレスの総務部長が企てた、阪神支部分会の分断と弱体化を狙った組織破壊問題は、一向に収束せず、現在も組合員の脱退勧誘が続いています。

その後、商船三井総務部の社員があらわれたため抗議文を手渡し、速やかに回答するよう通告しました。

早朝の通勤時間帯にもかかわらず、ピラを受け取る通行人(商船三井従業員)の反応は良く、500枚のピラは30分ほどでなくなりました。

また、日本港運協会の本部がある新橋の港運会館周辺にも宣伝カーを運行し、商船三井の不当労働行為を訴えました。

初めての商船三井に対する抗議行動でしたが、これ

井は当初1名の警備員を4名に増員、抗議文を持って社内に入ろうとしましたが、制止してきたため、警備責任者に「この責任者を呼ぶよう」伝えました。

しかし、時間が経過しても音沙汰がないため再度社内へ通告に向かおうとした矢先、商船三井は警察に通報したため、



商船三井本社前で抗議



抗議文を手に商船三井本社へ

からも慎重かつ迅速な対応で解決に向け運動を継続していきます。

副委員長 井ノ元 宏樹

港湾の発展・向上に光

現業部会視察学習会

8月7日、毎年恒例の現業部会視察学習会が行われ、執行部7名、現業部員12名が参加しました。

午前の部で大港協の三宅肇 事務局長に講師をお願いし、長きにわたる労働運動の中で、自身の経験を元に港湾情勢の変化とたかひの経過を軸に講義を受けました。

現在、人手不足が懸念されていますがワッペン登録されている港湾労働者人口は大阪で7000人、神戸で5000人、名古屋でも4000人となつています。そんな中、大港協は港湾産別の順守を第一に考え運動してきたことや、事前協議制度を守らせることこそ労働組合が船社や企業と協議を行う上で最後の

皆となり、港湾の秩序を守らせることでは最重要であることを強調されました。

そして港湾船内・沿岸の一日あたりの作業料金にもふれ、本来37000円は必要であるが、現状は22000〜25000円となつていることから認可料金制度の復活に向けた運動を強化しなければならぬと熱弁されました。1時間15分



午前の部 三宅肇事務局長による講義

の講義時間では全然足りないほど、参加者全員が聞き込む内容で、質疑でもインランドデポ問題やコンテナラウンドユースとの矛盾点など発言がされました。

最後に港湾が抱える産別問題に対し、これからも大港協、阪神支部ともに共闘の中で港湾の将来を築けるよう頑張らしようという提起され、とても実のある学習会となりました。

最新研修センターの 新研修センターの見学

午後からは本年10月から本格稼働する一般財団法人・港湾労働安定協会 港湾技能研修センターを見学しました。この研修センターは神戸ポートアイランドの埠頭の一角に6万平方メートルもある大型施設で、港湾荷役労働者に必要なフォークリフト、玉掛けなどの技能教育、クレーンなどの実技教育、また、大型・大型特殊・牽引自動車の教習を行い、作業に必要な免許・資格の取得を目的としています。

施設内には18列対応のガントリークレーンと、船倉を模した40フィートコンテナを55個積み出せる船形、ストラドルキャリアー、デツキクレーン、デリッククレーンなどの実機を使った現場に近い環境で、集中的に訓練が出来る荷役機器を備えています。

ガントリークレーン実機のオペレーター室に同乗させて頂き、スプレッター操作によるコンテナの荷役を間近で見学させてもらったり、技能センター館内のガントリークレーンのシミュレーション装置を参加者も操作し、普段出来ない体験に全員が興奮しました。

これからの港湾労働者の育成の面では施設の充実による技術の向上と、港湾労働防止協会の協力もあり、安全教育の充実した環境であることが分かりました。

そして技能センターは港湾関係事業者に向けた港湾安定協会の助成金制度を活用することが出来ます。免許・資格の取得の際には大いに活用してはいかかでしょうか。

今回の視察学習会では大阪港における問題や労働組合としての運動の課題など普段なかなか聞けないことを学習し、港湾労働者の環境面でも将来に先細りの不安があるとはいえず、職域の発展や向上にまだまだ光があることを実感しました。

今期の現業部会としての運動は終えますが、定例会や視察学習会、そして事務職部会との合同学習会や、支部労働対の港湾局懇談会にも参加したりと盛り沢山で運動してきました。

インランドデポや自動化など問題山積ですが、現業部会の仲間と共に来期も活発な運動を進めていきたいと思ひます。

現業部会長 久保田 稔



研修センター視察の様子

施設内にあるシミュレーション装置



施設内にあるシミュレーション装置

